

令和7年度 八峰町20歳を祝う会



8月14日、峰栄館で令和7年度八峰町20歳を祝う会が行われ、対象者50名のうち41名が出席しました。

式典では、中学校時代の恩師による点呼に続き、堀内町長が「皆さんは新型コロナウイルスなど、様々な困難を仲間たちと支え合って乗り越えてきました。これからも周囲の応援を忘れず、自分の力を信じて、失敗を恐れずに挑戦して欲しい。」と激励し、出席者代表の山内琉成さんと三浦莉子さんに記念品が贈呈されました。

20歳の誓いでは、紀本知希さんが「家族や友人をはじめ、今までの皆さんの支えに感謝している。社会の一員として、これまで以上に自らの言動に責任を持ち、信頼される大人になれるよう努力していきたい。困難や挫折があっても諦めず、課題に立ち向かっていきたい。」と力強く決意を述べました。

式典後は、八峰中3年生による「八峰中連」が和太鼓演奏で先輩たちをお祝いしました。同校に移動しホームルームも行われ、それぞれの近況報告や恩師との思い出話に花を咲かせ、再会を喜び合いました。

八峰町 夏の風物詩



8月1日、853年に慈覚大師が創建したと伝えられる白瀑神社で例大祭が行われました。

「みこしの滝浴び」は昭和初期、五穀豊穡や海上安全などを祈願し、地域の男衆がみこしを担いで練り歩いたのが始まりとされています。例大祭には50人の男衆と町内の児童・生徒が参加しました。連日暑さが続き、この日も30度を超える炎天下でしたが、男衆が威勢のいい掛け声と共に地域を練り歩くと、沿道からもたくさんの歓声が上がりました。

県内外から訪れた多くの見物客やカメラマンが神社境内で待ちわびる中、みこしが現れると熱気も最高潮に達します。

みこしを担いだ白装束の男衆が、威勢よく「ワッセ、ワッセ」と声を上げながら白滝の滝つぼに飛び込み、勇壮な姿を披露しました。

また、この日は境内に露店やキッチンカーが並び、祭典を盛り上げていました。

白瀑神社
例大祭